

いきかたブルワリー代表
国際ビアソムリエ 近藤真稔さん



昨年8月、四日市初のクラフトビール醸造所「いきかたブルワリー」が生桑町にオープンしました。ブルワリーはビールの醸造所のことです。代表の近藤さんは、ドイツの醸造学校が認定する「Doemens Biersommelier」を取得した、国際的なビアソムリエです。近藤さんがクラフトビールづくりにたどり着いた背景には、社会を変えたいという強い思いがありました。

思いの原点

幼少期から、勉強や運動の得意不得意や社交性などの限られたものさしで、人としての評価まで決まってしまう風潮に疑問を抱き続けていました。その違和感は大人になっても変わらず、もっと多様な価値観が認められてほしい、そして誰もが声を上げることで、社会を変えていけるということを伝えたいと考えようになりました。



この思いから、「生き方のものさしを、増やす」といういきかたブルワリーの理念が生まれました。

しかし、社会に対する問題意識を正面から訴えるだけでは、多くの人は身構えてしまいがちです。ビールは身近な存在であり、一見すると社会課題とは結び付きにくいですが、エンターテインメントとして楽しみながら、気付けば社会について考えているというきっかけを生み出せる存在になることを目指しています。

ビールを通して社会を身近に

例えば、こどもにとってビールは、大人になるまで経験できない未知の世界です。しかし、親子で醸造所を訪れ、ラベル貼りをしたり麦芽に触れたりするなかで、こどもが「自分も関わることができる」と実感してくれている様子を見ると、とても嬉しく感じます。また、ビールが嫌いな人が「これなら飲める」と言ってくれたときも、新しい世界との出会いを提供できたことにやりがいを感じます。

一杯に込める願い

誰がどんな思いでつくったのかが分かるビールが、この町の日常の中にある。それだけで、社会が少し身近に感じられるといいなと思っています。自宅で家族と飲みながら会話が生まれ、そのひとときが社会について考えるきっかけになることが私の願いです。地域の暮らしの中に自然と溶け込んで、いきかたブルワリーの理念も一緒に届けていきたいです。今後は、お客さんの声から生まれるビールをつくっていく予定です。いきかたブルワリーは「みんなでつくるビール屋さん」でありたいと思っています。自分の一言がビールになる。その小さな体験が、「社会は自分たちの声で変えられる」と感じる第一歩になればと思っています。



直売所内にある醸造所



さまざまな形のものさしがあしらわれた商品デザイン



国際ビアソムリエの認定証

9月放送のCTY-FM「よっかいち わいわい人探訪！」でも紹介します。(放送時間は裏表紙へ)